

2021年4月1日

2021年度入社式 社長挨拶

第一生命保険株式会社(代表取締役社長:稲垣 精二)は、2021年4月1日(木)に新入社員を迎えました。
社長挨拶の主旨について、別紙の通りお知らせします。

2021年4月1日新入社員

第一生命・第一フロンティア生命・ネオファースト生命	439名
第一生命情報システム	60名
第一生命チャレンジド	44名
第一ビルディング	11名
相互住宅	3名
	計 557名

“お客さま一人ひとりの「well-being(幸せ)」をグループ一丸となって追求”

新入社員の皆さん、ご入社おめでとうございます。皆さんを心から歓迎いたします。

第一生命グループは、3月31日に新しい中期経営計画「Re-connect2023」を公表しました。第一生命グループは、この中期経営計画の中で、人々の「well-being」を守り、高めることを強く打ち出しています。

私は、「well-being」とは、一人ひとりが、安心して満ち、豊かで健康な人生を送り、幸せな状態であることだと考えています。そしてその実現のためには、その人が抱える悩みや不安と向き合うことが必要です。また、一人ひとりの望む人生、生き方、その人らしい生活は異なり、その実現のために向き合うべき悩みや不安も異なります。

つまり、一人ひとり異なる「well-being」を高めていくこととは、一人ひとりに向き合い、その人の抱える悩みや不安をやわらげるサポートをお届けすることで、「安心」を超えた「幸せ」を感じていただくことなのだと思います。

第一生命は、一人ひとりのQOLの向上をサポートし、その先にある「well-being」を高めていくことに挑戦していきたい、そしてそれが更なるグループの成長につながると、私は考えています。これらを踏まえ、2021年度からの新しい中期経営計画を「Re-connect 2023」と題し、コロナ禍により分断されたお客さま・社会・多様なビジネスパートナーとのつながりを再構築するとともに、全てのステークホルダーからの負託に応えることで「より良い形でつながり直す」ことを目指していきます。

また同時に、当社グループの目指す姿を「将来にわたり、世代を超えて well-being に貢献し続けられる存在」と再定義し、グループ・ビジョンを「Protect and improve the well-being of all」に改めました。「すべての人々のしあわせを守り、高める」という意味です。当社グループは、安心、豊かさ、健康といった面から世界中の人々の well-being のために更に貢献していくとともに、未来世代の well-being のためにもより良い社会を築いていくことを誓います。

またグループ・ビジョンの実現に向けて、第一生命では、生命保険による「安心」のその先に見えるもの、すなわち、お客さま一人ひとりの「幸せ」の実現と、社会・地域の夢や希望溢れる未来の創造に、誠実に取り組み貢献していく決意を込め、今年度から新ビジョン「安心の先にある幸せへ。」を掲げました。

当社の創業者である矢野恒太が生命保険に出会ったのは24歳、ちょうど皆さんの年の頃です。それから、理想の生命保険会社を作ろうと、ドイツに渡って生命保険について学び、自ら法律を作り、困難に負けず真っ直ぐに挑戦を続けました。『世間の人々が喜ぶか、なくてもいいと思うかを考えよ。世間の人々が喜び、有益で便利だと感じてくれる仕事は、必ず世の中がその価値が認めてくれる。価値が認められれば、世間がその仕事を必ず大きく育ててくれる。だからこそ、仕事というものは世間のためにやるのだ』

矢野恒太のこの言葉はまさに、第一生命が社会課題解決に挑戦してきた証です。いま世間では、様々な社会課題を解決するための国際目標である「SDGs」が謳われていますが、矢野恒太は創業当時から「SDGs」の意思を持ち、社会課題解決に向けて挑戦していたのです。

現状に満足しては、常に変化し続ける時代の要請に対応できません。だからこそ、徹底したお客さま本位の姿勢で、変革にチャレンジしていく必要があります。皆さんには、理想と夢を大切にしながら、仕事を通じて、様々なチャレンジをして欲しいと思います。

生きていく上で大切なことは沢山あります。社会人としての第一歩を踏み出された皆さんには実現したい夢が沢山あると思います。自分の夢に向かって勇気をもって挑戦していただきたいと願っています。

第一生命グループは、皆さんが見つけた夢に向かって安心して挑戦できる環境を作っていきます。